

## 第5回(令和6年度第2回)吹田市市民自治推進委員会 会議録

### 1 日時

令和6年(2024年)11月14日(木)午後3時45分から午後4時25分まで

### 2 場所

吹田市役所 高層棟3階 災害対応オペレーションルーム

### 3 出席者

#### (1) 委員

若月 剛史(委員長)、金井 隆典(副委員長)、奥谷 義信、河野 路利、雑部 麻美、  
高原 新、西田 宗尚

#### (2) 事務局

市民自治推進室 中村部長、長井室長、田中参事、加樂主幹、廣澤主査

### 4 傍聴者

1名

### 5 議題

#### (1) 会議

市民自治講演会を振り返って

#### (2) 次回開催日程

### 6 議事の要旨

別紙「議事のまとめ」のとおり

## 議事のとまとめ

| 発言者  | 主な内容  |
|------|---|
| 委員長  | 市民自治推進委員会を開会いたします。<br>初めに事務局から報告を受けます。よろしくお願ひします。   |
| 事務局  | 会議の成立、傍聴者の報告。市民部長挨拶。  |
| 委員長  | 次第に従ひ、「市民自治講演会を振り返って」について議題といたします。御意見や御感想また吹田市の地域コミュニティの活性化にどう活かすべきかなど、順にお伺ひさせていただきます。  |
| 副委員長 | <p>           昨年の講演会では、まちづくりというのは、まちが情報処理のシステムとして機能させるために、必要なものが討議ということでした。今回は、討議とは何か、討議がまちづくりにどう役立つのかということ、かなり丁寧にお話しただけだと思います。まちづくりにおいて、問題や課題に直面した時に、一定の解決の方向性を与えることが必要になってくる。その方向性において、討議が必要になってくる。討議こそが問題解決を可能とするシステムを作り出すことができるというお話だったと思います。討議をするためには、同一尺度の信頼関係を持つメンバーが必要です。そういったメンバーがいないと俯瞰的に問題解決に取り組めない。つまり、討議の土台が作れない。同一尺度の信頼関係を持ったメンバーを育てるために、正統的周辺参加を紹介されましたが、時間不足で説明が省略されてしまいました。あともう一つ、講師が関わっていらっしゃる箕面船場におけるまちづくりやまちづくり協議会の実践経験を取り上げられていました。講師が活動の中で直面した問題は、箕面も吹田も変わりではなく、まちづくりに向かうものにとっては、共通する課題です。その課題を解決するために組織づくりが必要で、組織づくりで重要になってくるのがやはり討議という御指摘でした。講師の方は、まちづくりと自治会活動を分けているようにお話しされていましたが、私は分けなくてもよいのではないかと思います。課題に取り組んでいくことが地域や住民間で共通しているのであれば、俯瞰的に見る目が必要になり、解決するためには討議が必要になってきます。討議できるためには、同一尺度の信頼関係におけるメンバーが必要になってくる。まちが情報処理のためのシステムであるのと同じように、地域コミュニティや自治会も課題解決のためのシステムという風に作っていく、機能させていくということと結びつくのではないかと思います。         </p> |
| A 委員 | <p>           活動を ICT 化にふさわしいものと、人間の知恵に頼る部分が多いものとの 2 種類に区分するというお話が面白く感じました。どちらにも区分されないまま、あいまいな感じで全部を ICT 化だとか、逆に全部 ICT 化ではないとすると、非効率な運営が続くかもしれないので、私も区分できるならした方がよいと思いました。まちづくり協議会と自治会を、二本立ての別の組織としてお話しされていたかと思いますが、地域によって活動が明確に分かれているところばかりではないと思います。そうすると、例えば、ICT 化が向いているところは、全部自治会が受け持つ、人が討議するところは、まちづくり協議会が俯瞰的な視点で受け持つといったような、役割分担をそれぞれに対応させる形でできたら面白いのではないかと思います。そうした方が、責任の所在が明確になり、活動の領域が広がりすぎないから、効率的な運営に繋がるのではないかと思います。また、活動を分けた後は、それを誰がやるのかということ、分けられるなら分けた方がよいのかも知れないと思いました。         </p>  |

|      |  |
|------|--|
| B 委員 | 自治会の活動は、毎年同じことの繰り返しなので、もし、討議をしようとする、これまでのやり方への難癖と受け取られかねません。私としては、自治会活動でのお話として聞くのは難しいので、商店街やコミュニティセンター等で組織されているまちづくり協議会のお話としてお聞きしました。まちづくり協議会でも、人を集めるのは大変です。集まってきても、同一尺度の人はなかなかいません。それぞれが全く別の立場で意見を言うので、尺度というよりベクトルがバラバラな時があります。今日のお話にあったように、同じ尺度の人達が集まってきたら、討議もできるし、もうそれだけで 8 割がた成功しているようなものだと思います。人を集めたり、同じ尺度を持った人で話し合いをすることは、いかに大変なことか、最後は人の問題なのかなという印象もありました。  |
| C 委員 | 今回は具体的なお話もあったので、身近なことに落とし込みやすかったというのが一番良かったと思っています。A 委員がおっしゃったように、ルーティンは自治会がする、それ以外は別のところでというように、すみ分けるとわかりやすいと思います。ここ数年、私のところも防災、防犯、教育といった絶対的なところは自治会が担って、文化的な交流、祭りというところは自治会主体ではなく、少し広く取り組む方向に向けています。そのやり方が間違いはなかったのかなと感じました。まちづくり勉強会のようなものがあって、将来的には協議会に格上げしたいと思っているのですが、どうやって人を募るのかは、やはりアピールをもっとしていかないとダメだと感じました。広報誌やいろんな世代に向けたイベントを紹介していただいたので、そういったイベントを通して興味を持っていただく方が増える。そして、興味を持たれた方に協議会がどういうベクトルで活動しているかを明確にお話する。ただ、長く活動している方と新しい方の差はすごくあるので、その溝を埋めるのは難しいと講演を聞いてわかりましたし、実感もしています。結局は、人と人の関係性が一番根っこにあるのだと思います。まちを良くしたいとか、きれいにしたいとか、皆、思いは同じだと思うので、人と人、団体と団体がお互い尊重し合えて、歩み寄れるかということが一番大切で、そこに一番時間がかかるし、大変だろうなということを改めて実感しました。だから、今回の講演を聞かせていただいて、また更に頑張ろうと思えるくらいの内容でした。 |
| D 委員 | 自分のことを振り返ってみると、私も組織で仕事をしていて、人をリクルートする際に、会社のパフォーマンスを上げるために取り組むのですが、なかなかうまくいかないこともあります。その人がどのように関わってくるかによって、求められるものは異なってくると感じています。ベクトルと一口に言っても本当に難しいことだなと、自分のことに当てはめながら考えさせられるテーマでした。  |
| E 委員 | 1 つ目は、箕面のまちづくり協議会の話、そのまま吹田に当てはめるのは難しいと思います。2 つ目は、個々の色々な取り組みをされていることは、非常に参考になりました。自治会の加入促進は大事ですが、市全体で見たとときに地域ごとのまちづくりを行政が主導でやるべきだと思っています。また、人材については同一尺度を持った人を集めることが非常に難しいのであれば、同じような考えを持つ人に対して、各地域で活動してもらうような勉強会を行政が開催するべきではないかと思います。昔は自治会一辺倒でまちづくりの話をしていましたが、今は、色々な団体が集まって一緒に話をする場面を作るべきだと思いました。すぐにまちづくり協議会を作ることは難しいかも知れませんが、実践的に取り組まれている箕面の事例を発信していくことも行政の責任だと思っています。   |
| 委員長  | 私はやはり人材の問題が難しい問題だと感じました。まず人に来てもらうことが大変ですし、その中から全体を見渡せる人材を育てるという 2 段階のお話だと思います。楽しいイベ  |

|      |   |
|------|---|
|      | <p>ントを開催して人を集め、その中から全体を見渡せる人材をどう育てていくかが大きな課題だと思えます。E 委員がおっしゃったように、市役所が主となって人材育成の講習会を開いて、アドバイザーのような人を育成するというようなことも一つの方法かなと思えました。そういう俯瞰的な視点を持った方を地域の中で見つけてくる方法については、もう少し議論しないといけないと思えました。</p> |
| 副委員長 | <p>まず、参加してくれる人が大事で、この人たちがまちづくり当事者です。この人たちがいないと、まちづくりが始まりません。自らの地域や属性、商売のために、活動の中で自己実現として一生懸命やる。その中で方向性を示せる人、こっちの方向に進んだ方が全体的に良いのではという見方ができる人を、まちづくり当事者の中から少しずつ増やしていきましょうというお話だったと思えます。</p>   |
| B 委員 | <p>まちづくりについて考える機会の仕掛けとしては、連合自治会長にも、こういった講演会の案内をしてもよいかと思えます。</p>   |
| 委員長  | <p>他に何かございますでしょうか。ないようですので、次に移ります。次回開催日程について、事務局から説明を受けます。</p>  |
| 事務局  | <p>今後、地域コミュニティの活性化に向けて、委員会の御意見をお伺いすべきことがありましたら、6 月末の任期までに委員会を開催することを考えています。</p>   |
| 委員長  | <p>事務局の説明のとおりですので、よろしく願いいたします。それでは、本日の委員会を閉会いたします。</p>  |

順に、A委員、B委員、C委員・・・と表記しています。